

総会決議

公益社団法人日本動物園水族館協会は、総裁、秋篠宮皇嗣殿下のご臨席のもと、我が国最大の内湾である伊勢湾、その湾奥には多様な生物相を誇る藤前干潟を持つ、ここ愛知県名古屋の地において『「いのちの博物館」動物福祉 その学びと教育』をテーマに、2019年度通常総会を開催し、活発な協議を経て、「JAZA10年ビジョン」の基に行動していくことを再確認しました。

そして私たちは、飼育・展示動物の福祉を推進しつつ、貴重な野生生物と共生・共存できる持続可能な社会の形成実現を目指して、次のことを決議します。

1. 「飼育・展示動物の福祉」

動物園水族館は「いのちの博物館」として多くの生き物を飼育・展示しています。そして、多くの生き物を飼育・展示しているということは、多くの生き物の「いのち」を自然から預かっていると言う事です。

そこに生活している生き物たちが、いきいきとした様子を見せているのか、そのために私たちは何をしなければならないのか。私たちは、常に、そういった問題意識を持ちつつ、調査・研究に励まなければなりません。

自然から預かっている「いのち」や「生き物たち」が、いきいきと暮らしていること、そのことが動物園水族館を訪れる多くの人たちに喜びと癒しを与え、しかるにそれは同時に、そこで働く私たちの生きがいにもなります。

私たちの目指している「いのちの博物館」を実現するために、預かっている「いのち」をしっかりと考える事、護ることを、これからも私たちの活動指針とし、ここに再確認します。

2. 「動物園水族館の教育活動」

日本動物園水族館協会が取り組んでいる活動の一つとして教育普及活動があります。動物園水族館は、来場者に正確な情報を伝え理解してもらうことが大切です。

動物園水族館が行う教育普及活動を通して伝えるべき事は、単なる生き物の形態や生態等といった情報だけではなく、今日、日々失われつつある地球規模の自然環境の現状と課題であり、そのことが動物園水族館の持っている教育的使命です。自然界の生き物は食物連鎖の中で命のネットワークを作っていることを正しく伝えるとともに、飼育下の生き物が「いきいきと暮らしている姿」をいかに魅力的に、かつ説得力をもって展示するかが肝要です。そのことが私たち動物園水族館の社会的役割であると言えます。

「いのちの博物館」としての教育普及活動を実践することによって、「日本動物園水族館協会」は発展して行くものと考えます。

日本の動物園水族館の明日に向けた更なる向上のために、そして地球環境保全の実効性ある実践のために、今後も、私たちは、一丸となって取り組んでまいります。

2019年5月29日

公益社団法人日本動物園水族館協会
2019年度通常総会